

## 4.2 北海道支部の活動 「地震防災から都市型防災への変遷」

北海道支部 松井 義孝 (建設部門)

北海道支部防災研究会は、1995年1月17日の阪神・淡路大地震を契機に同年5月に発足した。そのきっかけは、同地震のかかわりにおいて、技術士ならば誰もが感じたに違いない。当時、関西のある技術士の支援活動に対し被災地の官庁では技術士なるものを知らないといふよく断られた報道を耳にした。当時北海道近郊でも、釧路沖地震、北海道南西沖地震そして北海道東方沖地震と被災していた。我々もひとつとではないとの奮起から能登繁幸会長他約120名の防災研究会活動が始まった。

### 4.2.1. 北海道支部防災研究会の目的と組織

防災研究会の目的は、科学技術者の集まりである(社)日本技術士会・北海道技術士センター会員で、防災に関する諸問題を研究し、北海道の災害を最小限に食い止める防災体制のあり方、更には防災型国土のあり方などを提言することにある。その組織を、事務局と5つの専門部会からなり、2年を一期とし現定期目に入っている。

#### 4.2.1.1 組織 (現在数75名)

- (1) 事務局：会長・副会長・幹事長・副幹事長
- (2) 専門部会(5部会長)
  - (2.1) 情報系部会(防災・通信・危機管理等に関する研究：現在15名)
  - (2.2) 地盤系部会(地形・地質・地震活断層・土地利用等に関する研究：現在16名)
  - (2.3) 交通系部会(社会基盤施設やそのネットワーク等に関する研究：現在16名)
  - (2.4) 都市系部会(都市の計画・施設・ライフライン等に関する研究：現在12名)
  - (2.5) 河川系部会(河川・海岸・港湾・ダム等に関する研究：現在14名)

### 4.2.2. 活動の足跡

防災研究会の活動は、第一期までのテーマが地震防災であり以下にその足跡を要約する。

#### 4.2.2.1 防災研究会発足当時の北海道と阪神大震災に絡んだ主たる災害背景

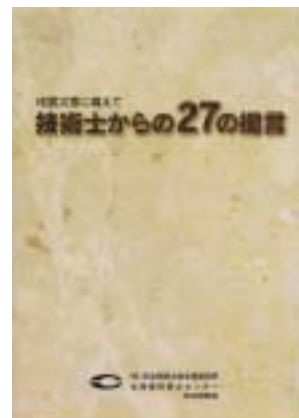
- 1993.1.15 釧路沖地震、900galもの地震動
- 1993.7.12 北海道南西沖地震、奥尻島などで死者・行方不明者200名以上
- 1994.10.4 北海道東方沖地震、釧路沖地震の復旧対策に効果
- 1995.1.17 兵庫県南部地震!
- 1996.2.10 北海道古平町にて豊浜トンネル岩盤崩落、バス乗客20名が死亡
- 2000.3.31 有珠山噴火

#### 4.2.2.2 第二期(1995.5～1997.3)

4.2.2.1で示した災害を反省に、5分科会で地震防災に関し積極的な調査研究活動を開始し、その成果として「技術士からの提言-地震災害に備えて(250page)」、**「地震災害に備えて-技術士からの27の提言(30page)」**を2分冊で発刊した。その主たる提言のサブタイトルは、情報系部会「災害情報の共有化にむけて」、地盤系部会「地震による地盤災害の予防をめざして」、交通系部会「災害に強い交通ネットワークの提言」、都市系部会「積雪・寒冷地における安心・安全なまち(都市)づくり」、水工系部会「北海道における巨大地震と河川総合防災のあり方」

1996.5.20 防災研究会1周年特別シンポジウムとして、1996.2月の古平町豊浜トンネル崩落事故の教訓から「斜面災害の予知」に関する講演・討論を行っている。

1996.10.22～11.1 北海道支部30周年記念事業の研



修として、「アメリカ西海岸の防災と危機管理システム」について調査報告を行っている。

4.2.2.3 第 期 (1997.4 ~ 1999.3)

4.2.2.4 第 期 (1999.4 ~ 2001.3)

第 期 ~ 期にかけては、「地震災害に備えて-技術士からの 27 の提言」を掲げ北海道を札幌他 4 ブロックに分けて各地域にて地震防災シンポジウムを開催した。北海道 212 市町村あてに、地震防災アンケートをとり行政と技術士活動について啓蒙を図っている。

1997.5.28 防災研究会 ‘97 特別シンポジウムを開催し、提言集「地震災害に備えて-技術士からの 27 の提言」による札幌講演を行った。

1997.11.25 防災研究会 ‘97 地域(函館)シンポジウムを開催した。

1998.1.16 防災研究会 ‘97 地域(帯広)シンポジウムを開催した。帯広市が協賛し、さらに道東地域 5 市町村の防災ネットワークに連携した。

1999.1.29 防災研究会 ‘97 地域(室蘭)シンポジウムを開催した。

1999.9.22 防災研究会 奥尻島懇話会を開催し、北海道南西沖地震の経験と今後復旧に向けて奥尻町職員および島民との意見交換を行った。

1999.11.2 防災セミナー「防災とまちづくり」をテーマに札幌市にて開催した。本セミナーは、本部災害対応調査検討委員会から工学博士 三船康道技術士を招き防災のソフト面から人・物・場のネットワーク、地域・行政間・広域連帯ネットワーク、災害時のオープンスペースなどの講演であった。

#### 4.2.3 現在の活動と今後への展開

第 ~ 期までは、地震防災を中心に展開してきた。第 期からは、メンバーも新たに再募集し高宮則夫会長他約 80 名のメンバーとなった。組織体制は、従来どおり事務局の基に 5 専門分科会とし、北海道を中心とする国土防災に関する諸問題の研究とした。その新たなプロジェクトは、会員の公募から「都市型防災」をテーマとした。

4.2.3.1 第 期 (2001.4 ~ )

2001.7.30 ‘01 防災研究会総会 新規プロジェクト「都市型防災」を開催し、新たなプロジェクトを確認した。基調講演に札幌市より「札幌市の防災計画」、話題提供として独立法人北海道開発土木研究所浅野基樹交通研究室長より「スパイクタイヤ規制後 10 年」と(株)ドーコン川北稔防災対策室長より「都市防災と情報伝達」の講演であった。

2000.11.26 リスクマネジメントに関する講演会を開催した。ご講演として(株)インターリスク総研府川均上席コンサルタントより「実施検証に基づくリスクマネジメント」であった。その内容は、最近のリスクトピックの検証、戦略的リスクマネジメントの具体的進め方、リスクマネジメントシステム導入例、戦略的リスクマネジメントの重要性と成功の秘訣などであり極めて有益な講演であった。

2002.3.19 「21 世紀に挑むリスク管理ビジネス-土木分野のリスクマネジメント」の講演会を開催した。ご講演として、(株)イーアールエスの草野直幹社長、井関奉文部長から地震・地盤災害と構造物のライフサイクル等リスクマネジメントの講演であった。

2002.4.19 ‘02 防災研究会総会を開催し 1 年間の活動の確認を行った。

2002.8.1 防災講演会セミナーを開催した。北海道総合企画部有山活動災害復旧対策室榊澤孝参事に「2000 年有珠山火災害復興計画について」と題し火山活動と地域の防災対応について、本部災害対応調査委員会山口豊副委員長には、「危機迫る首都圏の防災に向けて、そして三宅島では！」と題し本部の災害対応のスタンスや首都圏の防災対応の講演であった。

#### 4.2.3.2 今後の活動の推移

第 期 (2003.4 ~ )に向けて、「都市型防災に関する提言」の発刊を目指し各専門分科会が検討を進めている。それらのキーワードの一部を以下に記す。情報系部会は、「ニセコ・羊蹄 e 街道実験」、「さっぽろ光ネット 21 構想」、「スマート雪情報 2002」、「EPO のアンケート」地盤系部会は、「都市型地震による地盤災害」、「潜在的災害・地質汚染現状と問題」、「災害弱者と防災・地震時間隙水圧」、「都市防災と地下空間」交通系部会は、「減災型防災の提案と危機管理」、「都市施設の事前評価・交通対策」、「都市交通ビジョン」、「豪雪リスクと市民協働」都市系部会は、「自律コミュニティ構造圏プラン」、「都市型防災リスク論から環境」、「ロボカップレスキュー」、「札幌市地域防災計画」水工系部会は、「河川環境と維持管理」、「IT 技術利用・異常気象」、「地震津波解析技術」、「台風豪雨対策」、「都市内中小河川と環境に関するフィールド実験」などである。

以上

<http://www.ipej-hokkaido.jp/>

Email: web-master@ipej-hokkaido.jp